



PDF版を砺波市HPからダウンロードできます。

子育て世代に

おすすめの1冊

砺波市教育委員会

近年、親同士の交流機会が減ったことで、子育ての悩みを抱えたまま相談できない方が増えています。

そこで、親としての悩みを解消し、子どもとの関わり方を学ぶために、ぜひ読んでほしいおすすめの本を紹介します。

選書 藪 道子(令和8年度砺波市親学びスーパーリーダー)

杉森 貢(令和5年度砺波市親学びスーパーリーダー)

小学生の保護者向け

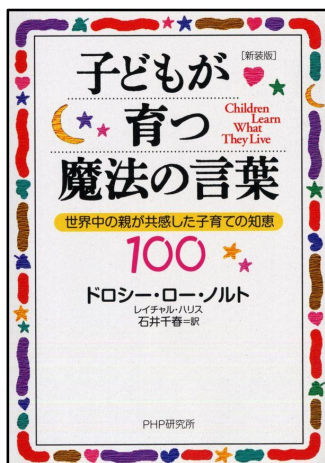


「立石流 子どもも親も幸せになる 発達障害の子の育て方」

立石美津子(著) すばる舎

オススメポイント

発達障害に限らず、一人ひとりの子どもの個性を尊重しながら自立へと導くお母さんの育て方。(藪)

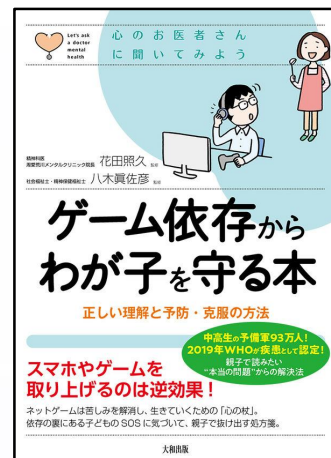


「子どもが育つ魔法の言葉」

ドロシー・ロー・ノルト/
レイチャル・ハリス(著)
石井千春(訳) PHP研究所

オススメポイント

子どもは親を手本として育つものであり、親の普段の何気ない言動が子どもたちに与える影響は大きい。(杉森)



「ゲーム依存からわが子を守る本」

花田照久/八木眞佐彦(監修)
大和出版

オススメポイント

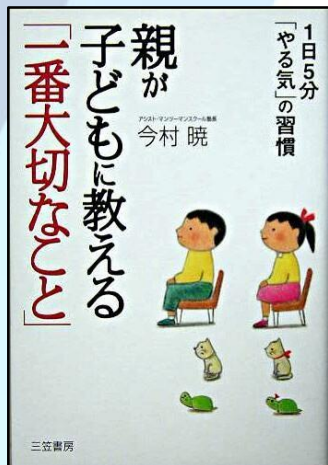
ゲームにはまること以外で子どもたちの辛さを解消させ、ゲームから自然に離れていくために親がすべきことを丁寧に教えてくれている。(藪)

ここで紹介する本は砺波図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。

蔵書検索システム「となみっけ！」で貸出状況をチェックできます。



裏面に続く

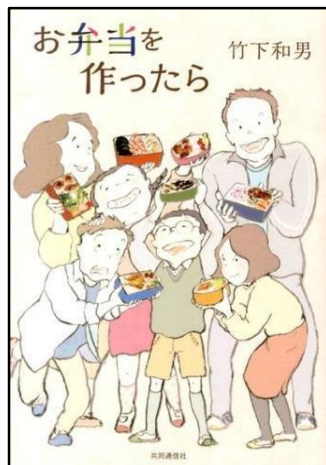


「親が子どもに教える 『一番大切なこと』」

今村暁(著) 三笠書房

オススメポイント

子どもに好ましい習慣をつけさせることで集中力がつき、学力も伸び、人生を変えていく。親が子どもにどのような習慣を身につけさせるかがわかる一冊。(杉森)



「お弁当を作ったら」

竹下和男(著) 共同通信社

オススメポイント

「お弁当作り」を通して子どもの軸を育てる。一から自分でお弁当を作るうちに、子どもは「食育」とは「そして」「生きる」とは」を学ぶ。親は手助けせず見守る強さも必要になる。(数)



「子どもの自己肯定感を 高める10の魔法のことば」

石田勝紀(著) 集英社

オススメポイント

子どものためを思って発した言葉は時に心を重くする呪いの言葉にもなる。呪いを魔法の言葉に変えれば、子どもは見違えるほどに伸びていく。(杉森)

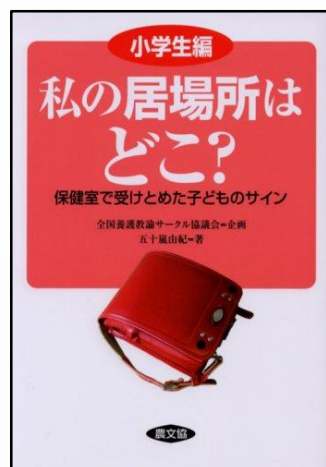


「ある日うっかりPTA」

杉江松恋(著) KADOKAWA

オススメポイント

親学びの主な開催場所となるPTA。毛嫌いしている人も多いが、実は異業種異年齢異性交流の場。参加すると楽しめることもある。(数)



「私の居場所はどこ? (小学生編)」

全国養護教諭サークル協議会(企画)
五十嵐由紀(著) 農山漁村文化協会

オススメポイント

親子関係のもつれや教師のゆとりの無さなどから知らないうちに傷つく子どもたち。保健室に来る彼らの悩みを受け止めながら明日への希望を見つけていく。(杉森)

「スマホ依存の親が 子どもを壊す」

諸富祥彦(著) 宝島社

オススメポイント

スマホが普及し始めてから、小学校で問題行動を起こす子どもが増え始め、筆者は「スマホ・ネグレクト」との関係性を指摘している。(杉森)

「さかなクンの一魚一会 ～まいにち夢中な人生!～」

さかなクン(著) 講談社

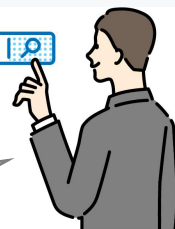
オススメポイント

何かに夢中になれる子ども、それを応援できる親の姿が描かれている本。(数)

親を学び伝える学習プログラム(通称 親学び)とは
⇒講座やグループワークを通して、親の役割や子どもへのかかわり方の気づきにつなげることを目指す参加型学習のこと

詳しくは、富山県のホームページをチェック!

とやま親学び



「親を学び伝える学習プログラムについて」
富山県ホームページ